

開 催 記 録

(審査委員会)

1	日 時	平成 25 年 12 月 19 日 (木) 10:00 ~11:30
2	場 所	県庁 中会議室
3	協 議 事 項	(1) 平成 24 年度運用実績について (2) 平成 25 年度運用状況について
4	協 議 結 果	<p>システムをより良いものとするため、以下のような議論があった。</p> <p>(1) 平成 24 年度運用実績について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 内水面総合センターおよび栽培漁業センターの養殖魚の育成が順調であったために空調等燃料や地下水の使用量が減少したとのことだが、これこそが本来の EMS の考え方だと思う。本来業務を順調に進めるという意識と環境へのプラスの影響がマッチしているよい例と言える。・ 電気使用量は気温の影響が大きいとのことだが、そのような自然的要因による変動を除いた人的な取組み (削減努力) のみによる変動を評価する新たな基準が必要である。そうしないと、単なる気候変動を見ているだけでマネジメントの成果が分析できない。・ 不燃ごみを削減するためにパソコン等、様々な物についてどこの所属で何が余っているのか、または必要とされているのかということを取りまとめ、効率的にリユースに取り組むべき。 <p>(2) 平成 25 年度福井県庁環境マネジメントシステム運用状況について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 不燃ごみについて、固形燃料化、サーマルリサイクル (熱回収) および焼却灰をセメント材料として使用する等、様々な形態で再資源化が実施すべき。・ 法的要求事項の適正な運用を徹底すべき。・ 優れた取組みや削減成功例の要因を分析し、水平展開している点が良い。・ コピー用紙の使用量が増加している。ペーパーレス化に成功した自治体または民間企業を参考として更なる削減方法を検討する必要がある。